

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 23 年 3 月 25 日)

述而第七

17 子の雅言する所は、詩書執礼、皆雅言なり。

孔子が発言する時には、標準語で正しい発音をしている。詩(詩経)書(書経)執礼(礼記にある礼を行う)もすべて、正しい言葉で正しく発音をしていた。

雅言とは、標準語で正しく話すことです。その当時の標準語とは、周の首都の西安付近の言葉ということです。

詩経は人の情性を正すという考え方で作られ、書経は大小の政事をきちんと執り行うための要諦で、執礼は人が守るべき決まりを意味しています。

「大小の政事をきちんと執り行うは政治の要諦である」という部分で、現代に置き換えて考えます。行政のトップは常に(正常なときも非常事態の時も)きちんとトップとしての責めを果たさねばならないと解釈しますと、今回の民主党の体たらくは、日本の国が転げ落ちていくのを更に加速度を増させたと感じます。

アメリカは今回の福島原発事故が起きた時に、すぐに日本政府に対して冷却するための機材を持って協力に行くという申し入れをしたところ、日本政府は断ったということです。官邸は知らなかったということで、我々は断っていないと言っているけれども、日本政府に申し入れて日本政府が断ったのだから、首相が知らないとか官房長官が知らないというのは、アメリカがむかつ腹をたてるのも当然です。その後、日本政府に対して協力関係を構築しようと申し入れるけれども、さっぱり返事がこないという状況に対して、3日くらい前の夜のニュースでは、<アメリカ政府が遂に日本政府の非協力的な態度に、日本政府と協力関係を構築することは出来ないと諦めた>とっていました。今、アメリカ政府は無人の偵察機を出して、日本政府と協力をしないで、自分たちの力で日本人を救おうという動きをしています。その動きの中で、原発から 80 キロ圏内は危ないということで、アメリカ人もアメリカ兵も 80 キロ圏内からは退避するような支持を流したということです。

先日、私は中斎塾フォーラム顧問の木内孝さんと参与の大野さんと会って、意見交換をしました。三人の意見が一致したのは、<続けざまに又、大きな地震は来るであろう>ということです。大野さんは専門の立場で、「鳥の新型インフルエンザは千葉で発生し、終息

したと思ったら又、発生した。鳥の新型インフルエンザも近づいている。危ないです」と言っておられました。<非常事態がこの上更に続けてくるという想定で準備をしておかなければいけない>という考えで一致しました。木内さんは近所に外国人が沢山住んでいるので、「原発の話が出たら本国へ帰るように通達が出て、ご近所の外国人がバタバタと国に帰ってしまった。フランス人が一番早かった」と言っておられました。

ということで、日本は危ないと思います。ちなみに、日本から放射能の雲が拡散していく様子をシミュレーションした映像があって、現実にはアメリカには放射能が到達しているわけです。アメリカに到達していて、日本・東京は安心だなどと言っているわけがない。

世界のから日本を見た場合、日本は大変な状況になっている・危なくて住んでいられない状況なので、少なくとも首都圏から出て関西から九州方面に移動しなさいという指示も出ているようです。実際にドイツの大使館は、すでに大使館機能を大阪に移したそうです。

原発はこれからまだ危ないと思います。特に日本政府のやり方、東電のやり方で酷いと感じた一番象徴的なものは、作業員が2名被曝をした事故です。上半身につけた個人線量計で170～180ミリシーベルトだったという数値が出ていましたが、専門医の話では、1000～2000ミリシーベルトの放射線にさらされないと、これほど皮膚は爛れないという話でした。ですから発表の仕方が、かなり操作されているのではないかと感じます。内部の話で、東電の正規の職員はほとんど50キロ圏外に出ていて、現場で一所懸命作業をしているのは協力会社・下請け会社の人だという話もあります。被曝した3人の作業員は、前日までは放射線を測る係員と一緒に付いて作業をしていたそうですが、被曝した日は、“昨日まで何ともなかったから今日も大丈夫だろう”ということで、放射線を測る係員は付いていなかった。作業員は丸腰で行ったようなものだから被曝してしまった。

こうした事故に関して原子力保安院の人たちが発表をしていますが、経済産業省の官僚の科白では、「彼等は2年くらいで渡り鳥で仕事をしている官僚連中で、技術の専門でもない。ずぶの素人が付け焼刃で覚えてテレビの前で喋っているのだから、要領を得ないのは当たり前だ。出させるべきではない・・・」というごたごたを裏でやっているようです。

余分な話になりますが、日本の政府というのはゆすり・たかりだなど今回つくづく感じています。中斎塾フォーラムの大野参与の会社は鳥インフルエンザ用のマスクを販売していますが、今回の震災で、厚生労働省から感染症が広がるからマスクをタダで出してくれと依頼があったそうです。色々考えて100万枚の在庫全てを出そうと決意したわけです。小さな会社ですから、それこそ会社の存続にもかかわる金額です。本人は会社が潰れる覚

悟でマスクを出すと約束をしたのにもかかわらず、厚労省は「有難うございます。では、送っておいてください』と言うのです。トラックはないしガソリンはない状況で、どうしても送れるのですかと言ったところ、取りに伺いますということになった。ところが1日待っても、2日待っても、3日待っても来なかった。感染症が広がってからは間に合わないの、何とかならないかと私の所に相談がありました。私の会社でも緊急支援車両で支援物資を東北の営業所に運んでいましたから、それを準備しましょうということになりました。しかし、どこへマスクを運べばよいのか連絡をしても全く返事がない状況で、結果としてまだ送れていません。

同じような例が、新聞にも沢山ありました。日清食品がカップ麺15万食を農水省の指示通り自衛隊の入間基地に届けたところ、運搬するヘリコプターがないと受け入れを断られたそうです。ワコールも下着3万枚を用意して経産省に連絡をしたけれども、要請がこない状況とありました。とにかく政府は言いつ放し、頼みっ放しで、後の詰めがない。

私の会社で支援物資を送るにしても、調べてみると輸送コストが11万円くらいかかるのです。政府に身銭を切るつもりはありませんから、11万を出してくれと連絡しても、返事は来ませんでした。お国の為だから身銭をきって出してくれというのは、ゆすりですね。強制力を持った要請です。お国の為と言ってやらせておいて、お金を払わない。国民の善意につけ込んだ、ゆすり・たかり集団が日本政府だと感じました。ですから、次にまた大きな地震が起きても、日本政府は右往左往するだけだと思いますから、やはり自助努力しておかなければいけないと思います。

今回の震災で停電は非常に困りました。でも、つくづく感じたことは、電気を東電から買わなければよい、さもなければ電気を使わない生活をすればよいのだということです。ガソリンも同じで、ガソリンを使わない車にすればよい。又は、移動手段をバイクや自転車にすればよい。スーパーやコンビニに食糧がなくなったら、自給自足をして最低限の食べ物を用意しておいた方がよいのです。私は1ヶ月分くらいの食料を自宅に備蓄してありましたが、この次のためには、3か月分くらいを用意しなければいけないと感じました。

本日の論語は、トップが悪いと困るのは国民ばかり。やはり自助努力をしましょうと申し上げて終わりにします。